



# 坂折山の

## 玉んびようたぬき

〇〇〇最終回

下末松 上村しづ

〈前回までの粗筋〉

昔、坂折山に玉んびようとうたぬきの統領があり、仲間といつしよに暮らしていた。ある日、日ごろから家来になれと迫っていた浦戸のひたい白たぬきが大名行列比べで結着をつけようと申し込んできた。これを受けた玉んびようは、山内様の行列を見慣れているひたい白に對抗するためにと、東海道殿様の行列を見ようと、東海道まで行って調べてきた。そして仲間と必死で難しい練習を続けた。玉んびようは命を懸けて年越全体の仲間を守ろうとしていた……。

いよいよ十月十五日になった。玉んびようは一族を引き連れ、朝早く大津の山で待つことにした。子だぬきははずめ、若だぬきははと、大人はとび、統領の玉んびようはやぶさきになり、折年様へ勝利を祈って飛び立った。

約束の時間が迫ってきた。玉んびようが西を見つめていると鹿兒山の端を行列がゆっくり進んで来るのが見えた。それを見ると予想していたとおり三葉柏の山内家の紋を付けた道具、おかがまぶしく光ってみごとであった。

やはりひたい白、寸分のすきもない大名行列である。玉んびようはもう迷うことなく皆を指図し、それぞれの役に化けさせ、心臓の下の毛を一つかみ引き抜き息を吹きかけるとたちまちやつこ姿の家来がお供に加わった。大津の関で西から来たひたい白の山内家の行列と、東からの玉んびようの行列がお互いの顔が見えるほど近くなった。そのとき山内様の行列がびたりと止まり、道路わきの土に手をついた。驚いたのは玉んびようの行列である。これでは行列比べもあつたものではない。

もつと驚いたのはひたい白である。ひたい白は木の上で、今に見ろ、玉んびようが殺されると悦に入っていたのであつた。大名行列をしようと言つたのも山内様の行列が今日、この時間ここを通ることを知つていたので、玉んびようをやつつけようと計算していたのだつた。ところが本物の山内様がおかごから履物も召されず平伏されたのである。

玉んびようの行列にはあおいの紋が付いていたからであつた。山内の殿様は突然何の連絡もない徳川様の行列のことで一同大あわてであつた。

ところがとんでもないことが持ち上がった。道路端の農家から突然犬が徳川様の行列に飛び付こうとしたのである。犬の鼻はごまかせない。何も知らないお殿様の顔から血の気が引き、家来に犬を取り押さえよと命じた。徳川様の前で刀を抜くわけにはいかない。犬はけたたましくほえかかる。山内家の侍たちは犬を取り押えるのにやつきになる。犬は暴れる。玉んびようはひたい白にはかられたことを知ると、たぬきたちに逃げるように指図し、自分は犬に立ち向

かう。指図どおりすべてのたぬきは思ひ思ひの鳥になり空に舞い上がった。後には木の葉、すすきの穂が残されていた。あつげにとられた侍たちのすきをねらい、犬は玉んびようの足にがぶりとかみつぎ、なおも首に飛びかかろうとする。めぐは犬に体当たりをしはね飛ばされ、二匹ともたぬきの姿にもどつて逃げるすべもなくうすくま

つてしまった。殿様はあきれにあきれた家来にたぬきを助けさせ傷の手当てを命じた。追われた犬はまっすぐにひたい白のいる木の下でほえたてた。ひたい

白は思わくはずれと恐しさに逃げることもできず体がすくんでしまった。そして、統領たぬきとしては恥ずかしいが、すずめにやつと化けて西の空へ逃げた。自分の身を盾にし仲間を守つた玉んびように殿様は深い感銘を受けられたようである。上に立つ者はこうでなくてはならな

いと、家来をいっそうたいせつにしよと思われた。殿様は玉んびように楠玉兵衛という名を与え、めぐといつしよにお城に遊びにくるようにといたわり、わざわざ玉んびようを年越山まで家来に送らせたということがある。折年神社が火災で焼けたときも山内家から大枚の金子がお下げ渡しになつて

今、折年神社の屋根に山内家の三葉柏の紋が上つているが、このお金をくださつたのはあゝときのお殿様かもしれない。(終わり)

### 音楽鑑賞会

～香南中学校体育館落成記念～

- 主催 香南中学校
- 日時 4月15日(土) 午後1:00～2:30
- 場所 香南中学校体育館
- プログラム
  - ソアラノ独唱 日本の歌(荒城の月ほか4曲)
  - ピアノ独奏 ショパン練習曲「エオリアのハーブ」ほか5曲
  - ソアラノ独唱 外国の歌(蝶々夫人ほか5曲)
- 出演者
  - 元吉恵子 (オペラ歌手)  
作陽音楽大学助教授、香南中学校出身
  - 田中いづみ (ピアニスト)  
作陽音楽大学非常勤講師